

## 議事録(抄)

提出日：令和 2 年 7 月 31 日

会議名	整理番号
令和 2 年度 平戸市介護保険事業計画等策定委員会（第 1 回）	
出席者（委員）	日 時
山田委員、岩本委員、川口委員、宮崎委員、宮本委員、 濱崎委員、池田委員、久家委員、浜田委員、 福浦委員、松永委員、小崎委員、山本委員、塚本委員、 曾川委員、佐藤委員、末吉委員（順不同） 【17 名出席】	令和 2 年 7 月 30 日（木） 15：00～16：40
出席者（事務局）	場 所
福祉部長 榊田、長寿介護課課長 尾崎 長寿介護課 井上、藤井、松本、作江 ぎょうせい九州支社：松尾	平戸市社会福祉協議会 集会室

（以下、委=委員 長=委員長 事=事務局）

協 議 内 容
<p>●資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議次第</li> <li>・ 資料 1：第 8 期平戸市高齢者福祉計画・平戸市介護保険事業計画について</li> <li>・ 資料 2：第 8 期平戸市高齢者福祉計画・平戸市介護保険事業計画アンケート調査の結果概要について</li> <li>・ 資料 3：今後のスケジュールについて</li> </ul> <p>●配布資料確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料 1～3 及び「第 7 期の概要」「第 7 期計画書」</li> </ul> <p>●開会</p> <p>●福祉部長挨拶</p> <p>（部 長）お忙しい中を策定委員会へのご出席、また委員を快くお引き受けいただきありがとうございます。新型コロナウイルスが拡大している。長崎県にも感染者がいる。当面の間、ウィルスと共に生活していかなければならず、特に高齢者は重度化の危険があり注意が必要で、関係各位のご努力に改めて感謝申し上げますとともに、今後ともよろしくお願ひしたい。平成 12 年に介護保険制度が始ま</p>

り、20年が経過。要介護認定率は年々増加している。団塊の世代が2025年には後期高齢者に、2040年にはそのジュニア世代が高齢者になり最大数となる見込み。第8期計画はそこを見越していくこととなる。委員の皆様には活発なご議論をお願いしたい。

●委員自己紹介

- ・委員改選後初の委員会のため、自己紹介。

●議事

(1) 会長・副会長選任

- ・自薦・推薦なし。事務局より提案。宮本委員が委員長、山本委員が副委員長に選任。
- ・委員拍手で承認。

●会長挨拶

(会長) 新型コロナウイルスにより医療・福祉の現場も大変な努力を強いられている。また豪雨は本県においても甚大な被害を及ぼしている。先日の大雨では平戸市でも道路通行不能など大きな影響があった。皆様のご協力により、よりよい計画としたいのでよろしくお願いいたします。

●副会長挨拶

(副会長) 副会長を務めることとなった。よろしくお願いいたします。

●会議成立の確認

- ・委員は2名欠席。委員の過半数出席により会議成立となる。

【以降、会長による進行】

(2) 第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定について

- ・資料1に沿って事務局より説明

(事務局) 計画の背景／認定者数が増えると介護事業者の負担も増えていく／2025年には後期高齢者が急増、その後生産年齢人口は減少する／計画の趣旨／第7期における基本方針／調査の実施。サービス提供事業者、在宅生活改善調査ほか実施。次回委員会で結果をお示しする予定／第8期基本指針で災害や感染症対策に係る体制整備という項目が追加／策定の主なポイント など

【質疑】

(委員) 資料に第7期の3つの基本方針について書かれている。3年間実施してきた中で、平戸市として達成できたと思うこと、課題が残ったことについて教えてほしい。

(事務局) いずれも現在進行形である。「1 高齢者を支える地域づくり」は、まちづくり協議会など各種団体との連携強化を努めているところである。その中で、社会資源の確保や、新たな支える側・支えられる側の体制づくりを進めているところであるが、まだ完全とは言えないと思う。「2 介護予防・日常生活支援の推進」については、いろいろなところで介護予防の取組を進めているところである。今後も充実が必要と考える。「3 介護サービスの充実」は、国の制度などに従って各施設と連携しながら進めていく。いずれも、社会状況の変化などにより状況は変わるものであり、柔軟に対応していきたい。この会議で委員の皆さんのご意見をいただきながら、第8期では反省点も踏まえ計画に記載したい。

(委員) 計画策定における主なポイントに8項目あったが、特に平戸で力を入れていきたいものはあるか。

(事務局) すべてが重要だと思っている。国の基本指針はすべて推進していきたい。

(委員) 介護人材確保はかなり重要だと思うのでよろしくお願いいたします。

(3) アンケート実施・結果報告について

・資料2に沿い事務局より説明

【質疑】

(委員) 質問というか感想であるが、とても良いアンケートと思う。p15の認知症の状況。これだけ見ると心配なさそうにも思えるが、p7の転倒の経験が後期高齢者で増えるは、空間の認識能力が高齢になると衰えるということかもしれない。p8の外出意欲が減ることも認知機能に影響すると思う。これらも8期計画に盛り込むべき。

(事務局) 身体を動かす行動が減れば、認知症も進むと理解している。どのように外出や体を動かす機会を作り増やせるかに取り組みたいと思っている。

(委員) 平戸市の高齢化率は県内3番目に高く、認定率が低い要因は？ 地区別の認定率、年齢層ごとに認定率がわかるか。また、p27、地域包括支援センターの認知度が低い。設置から10年以上経つ中で認知度が上がらない原因は？

(事務局) 介護予防に力を入れている状況である。今年度はフレイル予防、通所型の短期集中的なりハビリなど新たな支援を入れながら、今までの取組をさらに充実

させることに取り組んでいる。アンケート結果から事業を見直す機会にもなるので、委員の皆さまもこれらの分析を見て介護予防についてご意見いただきたい。

(事務局) 地域包括支援センターの認知度については、知らないのは何が原因なのかと考えているところだが、周知不足だと思っている。地域包括支援センターという名前が知られていないということはあるかもしれないが、高齢者支援センターや市役所に行けば何らかの相談はできるということは徐々に浸透しているのではないかと。相談件数は年々増えている。地区別認定率は次回資料をお示ししたい。

(会長) 地域包括支援センターの認知度を高めるという問題は前回計画でも話が出たところである。認知度の向上に努める何らかの方法を考えていてもらいたい。

(委員) 北部、大島、度島などと、地区の特徴が出ている。地区ごとの状況を踏まえて対策するべきである。予算配分なども。また、在宅で最期を迎えたいという希望が4割くらいあるが、現状平戸市では難しいと思う。市ができること、考えていることがあれば教えてほしい。

(事務局) 圏域ごとの計画はたてていない。看取りについては、できる範囲の支援をやっていきたい。在宅医療・介護の体制づくりの話し合い、研修・情報交換会は実施している。

(委員) 地域の役割について、まちづくり協議会との連携の計画がないのは残念。人材確保しながら進めてほしい。

(事務局) まちづくり協議会で関係者との協議をさせていただいており、ご意見を参考にすることはできる。そこで情報を得ながら、必要に応じ対策をとりたい。計画にどのような形で記載するかは未定である。

(会長) 他に意見はあるか(特になし)。このアンケート結果を大事に、よい計画にしていければと思う。

#### (4) 今後のスケジュールについて

・資料3に沿って事務局より説明

(事務局) 委員会は、大体ひと月に1回という間隔である。次回は9月下旬くらい、2週間ほど前にはご案内したい。時間については15時からでよいか(異議特になし)。6回、7回については回数も含め調整することもありうる。

#### (5) その他

(会長) 他に意見などあるか。

・特になし

以上

